

【論文提出者】 社会文化科学研究科 教授システム学専攻
天木 暁子

【論文題目】

学習課題分析に基づく自己主導的な学習を支援する e ラーニングシステムモジュールの開発研究

【授与する学位の種類】 博士（学術）

【論文審査の結果の要旨】

天木暁子氏が提出した博士論文「学習課題分析に基づく自己主導的な学習を支援する e ラーニングシステムモジュールの開発研究」は、独創性・有用性ともにすぐれた研究業績であり、以下の経緯で審査委員会は本研究科に提出する学位論文として博士号にふさわしいとの判断に至ったことを報告します。

①本論文の位置づけと審査経緯

本論文は、インストラクショナルデザインにおける学習課題分析に基づく e ラーニングシステムモジュールを、高い実用性を備えて開発し評価した結果をまとめたもので、他に類を見ない独創的な研究である。天木氏が提出した博士論文に対して、審査委員会は平成 23 年 12 月 8 日付で修正要求を通知した。それを受けて、修正論文が平成 23 年 12 月 15 日付で提出された。それを受けて平成 24 年 1 月 12 日、審査委員全員出席のもと審査委員会を開催し、修正論文に基づく口頭発表及び試問を行った。

②本論文の示す新知見と独創性

本論文は、学習課題分析結果としての構造図に基づく e ラーニングシステムモジュールを開発し、形成的評価によって得られた新しい知見を示したものである。第 1 章で研究背景と研究目的を述べたのち、第 2 章、第 3 章、第 4 章ではそれぞれ、自己主導的な学習に関する先行研究、学習課題の構造化技法に関する先行研究、既存 e ラーニングシステムの学習内容選択支援機能および進捗提示機能に関する先行研究について紹介した。第 5 章では課題分析図に基づく学習内容選択支援ツールの開発を行い、e ラーニングシステム上での学習者の自己主導的な学習内容の選択支援方法を提案した。第 6 章では課題分析図に基づく事前・事後テストモジュールの開発を行い、学習者の自己評価と進捗管理の支援方法について提案した。第 7 章では、教授者対象の課題分析図作成支援ツールの開発を行い、学習者の自己主導的な学習を支援する e ラーニングコースの設計手法を提案した。第 8 章では、これらの開発モジュールについて、研究目的に照らし合わせて e ラーニングシステムにおける自己主導的な学習の支援について考察した。最終章の第 9 章では得られた成果と今後の課題・展望について述べた。教育実践現場ですぐに利用可能なモジュールとして学習課題分析に基づいた学習者支援ツールと教授者用ツールを実装したことに高い独創性が認められる。

③本論文の評価

本論文の成果は、これまでに 2 回の国際会議および 9 回の国内学会の大会や研究会で口頭発表により報告し、高い関心を得てきた。また、第 5 章および第 7 章で示した成果については、それぞれ、以

下の査読付学術雑誌に採録されており、独創性が認められている。

高橋暁子,喜多敏博,中野裕司,市川尚,鈴木克明(2011) 課題分析図を用いた学習内容選択支援ツールの開発 - Moodle ブロックによる学習者向け機能の実装 - 日本教育工学会論文誌,35(1):17-24

高橋暁子,喜多敏博,中野裕司,鈴木克明(2012) 教授者用の課題分析図作成ツールの開発 - Moodle への実装と評価.教育システム情報学会論文誌, 29(1):7-16

【最終試験の結果の要旨】

天木暁子氏が提出した論文「学習課題分析に基づく自己主導的な学習を支援するe ラーニングシステムモジュールの開発研究」をもとに、平成24年1月12日10:30より、審査委員全員出席のもと審査委員会を開催し、修正論文に基づく最終試験を行った。

その結果、学位論文の記述内容に関する質疑に的確に答えており、当該論文の先行研究の成果や限界等についての背景的な知識も豊富で、論考の過程も明確に整理されていることが分かった。また、研究の背景や教育工学的意義に関する質問についても、研究の成果および本人のこれまでの学術活動によって得た見識に基づいた学識が披露された。

よって、天木暁子氏は、博士の学位を授与されるにふさわしい学識と研究遂行能力を有するので、最終試験を合格と判定した。

【審査委員会】

主査 喜多 敏博
委員 中野 裕司
委員 合田 美子
委員 鈴木 克明
委員 渡邊 あや
委員 仲林 清